

チキン太郎

登場人物

チキン太郎

従業員 犬・猿・キジ

鬼田

鬼田の子分 A・B

鬼田社長

学生 1・2・3

客 エキストラ

チキン太郎（僕はチキン太郎。からあげ屋の息子だからこんな名だ。）

鬼田 おい、チキン〜。

チキン はっ、はい。

鬼田 お前って、本当にチキンだよな。びびってんじゃねーよ

チキン（この人は鬼田。クラスの中心人物で、あとは見てのとおりだ。）

チキン す、すみません。

鬼田 ま、いーや。それより、ジュース買ってこいよ。

子分A うちの分もよろしくねー♡

子分B ねー♡

チキン うん、わかった…。

チキン（僕はこんなやつだから、鬼田には歯向かえずにいる。）

〈ジュースを買って、戻ってくる〉

鬼田 おせえよ、チキン。

チキン ごめん。

〈コーラを渡す、鬼田それをひったくって〉

鬼田 はあ？なんでコーラなんだよ！俺炭酸飲めねーんだよ！イチゴオレだろ！？買いな
おしてこい！

チキン はい…。

〈放課後〉

鬼田 今日荷物多いなー（たるそうに）

子分A 鬼田くーん！一緒に帰ろー！（手を振りながら）

鬼田 おーう！おい、チキン。荷物持てよお。

チキン …はい。

〈下校時〉

チキンに荷物を持たせて、鬼田の両脇には子分が腕組んでる

チキン あの、僕の家、ここだから…。(からあげ屋を指さして)

鬼田 お前んち、ここなの？しゃーねーな。ちよっと食ってってやるよ。行くぞ、お前ら。

子分A・B はい♡

〈入店〉

従業員 いらっしゃいませー！

鬼田 ふーん。なるほどね。(店内を見回す)

子分A どうしたの？はやく食べようよ！

鬼田 おうー。

〈食べる〉

鬼田 (…な、なんだこれ、ただのからあげ…たる？俺んちの店のより、うまいだど！?)

子分A なにこれー！？チキンのくせに結構おいしいじゃん！

子分B ね！おいしい！

チキン えへへ。これ、ばあちゃんの特製からあげなんだ…。ばあちゃんからあげは世界一だと思うんだ…！

鬼田 (舌打ち) チキンのくせに調子の上じゃねーよ。(机バンツ)

チキン ごめん…。

〈次の日〉

鬼田 なあ、チキン。昨日のからあげ超うまかったぜ。

チキン 本当…？ありがとう。

鬼田 そんでさあ、あのからあげ、家で作ってみたいからさ、レシピ教えてくれよ。

チキン えっ…。それはだ(途中まで言いかけて)

鬼田 いいだろ？俺の頼みなんだからさ。(鼻で笑う感じで)

子分A そうよ。鬼田くんの頼みが聞けないのお？

チキン わかった…今度持つてくるよ…。

〈数日後、放課後、店の前〉

チキン あれっ？

〈店に営業休止の看板が。急いで店内に入る〉

チキン あの！どういことですか…！

犬 ああ…、営業休止のことね…。

猿 数か月前、向こうの通りに「鬼ヶ島」っていうお店ができたでしょ？

キジ あそこが、最近うちとまったく同じからあげを安く売ってるそうなのよ…。

犬 似たものを売っているお店は、2つもいらないでしょ？

猿 お客さんも来なくなったから、一時営業休止にしたってわけ。

チキン そうですか…。まったく同じからあげ…？そんなの、ばあちゃん特製のからあげだから、レシピがないと……あつ！

キジ どうした？

チキン いや…でも鬼田くんが…（ボソボソと）

犬 鬼田…？

猿 鬼田って…どこかで聞いたような…。

キジ もしかして、鬼ヶ島の社長の名前、鬼田じゃなかったかしら？

チキン えっ！じゃあ鬼田くんは鬼ヶ島の、社長の息子…？

猿 鬼ヶ島…悔しいけど、今の私たちにはどうてい敵わないわ…。

キジ 店長もとっても困ってる…このままじゃ、この店…。

チキン（ばあちゃん…みんな…！）

チキン ごめんなさい…！！

犬 何！？どうしたの？

チキン 実は僕…鬼田くんに、うちのからあげのレシピを…渡しちゃったんです…。

従業員 えっ…！？

チキン どうしても、自宅で作りたいっていうから…。（悲しげに）

犬 だから、鬼ヶ島で、うちとまったく同じからあげが出せたのね…。

チキン 本当にごめんなさい。僕のせいで…。

猿 気にしないで。過ぎたことは仕方ないわ…。

〈チキンの携帯が鳴る〉

チキン 鬼田くん…！？ はい、もしもし…。

〈通話終了〉

犬 どうしたの？

チキン 実は…

〈回想〉

鬼田 もしもし…♪鬼田だけどお…。

チキン えっ…な、何…？

鬼田 最近、お前んとこの店、客が少なくて困ってんだろ…？

チキン それは…鬼田くんの仕業だろ…！（怒りを抑えながら）

鬼田 まあな、でもお前の接客態度とかにも問題があるんじゃないかねーの？？てかお前接客で

さんの？

チキン で、できるよ！

鬼田 ふっ、どーだか（笑）お前みたいなチキンの店なんか潰れちまえばいいんだよ（笑）どうせ、他の従業員もみんなチキンなんだろう？え？

チキン ……なよ……！

鬼田 あ？聞こえねーな。

チキン 僕のことなんてでも言えればいい。でも…従業員はバカにすんなー！勝負だ！うちの店は君のところに負けない！！

鬼田 ……お、俺の店に負けない…だと？（最初少しびびった感じで）その勝負、受けて立つぜ。

チキン じゃあ、僕の店と君の店の売り上げを競おう。どちらが多く売り上げられるのか！

鬼田 はあ？んな（言ってる途中で

子分A そんなの、鬼田くんのところが負けるわけじゃないじゃない！！ねえ！？

鬼田 んなの、あ、当たり前だろ！！上等だ！ああ、お前が勝ったらレシビ返してやるよ。それと、あのからあげの販売もやめてやる。まあ？？お前が勝・て・た・らの話だけだな！！ははははは！

子分A あはは！さすが鬼田くんだね！かっこいいー！

鬼田 だろ？はっはっ（笑）そうだ、ハンデとして一週間やるよ。勝負は一週間後、三日間な。そのうちお前んところが一日でも売り上げを上回ったら俺は負けを認めてやるよ。まあ、せいぜい頑張れ（笑）はははははは！

〈回想終了〉

猿 うわっ、なにそれ！

キジ そんなこと言われたら黙ってられないわ！

チキン 大丈夫ですよ…必ず、鬼ヶ島を上回るからあげを作ってみせますから…！

猿 …あなた、一人でやるつもり？

チキン う…えっと、それは…。

犬 できないでしょ？私たちは何のための従業員？（きつく言いすぎず）

キジ …こんなときのためじゃない！ 四人で力を合わせて頑張らしよう！

チキン みなさん…！

猿 よーし、

四人 打倒！鬼ヶ島ああ！

チキン（こうして、僕たちは新しいレシビを考え始めた。）

チキン これも何か違う…失敗だ…。

犬 頑張らしよう。

チキン（僕たちは、限られた時間で何度も失敗を経験した。しかし、それは僕たちにとって充実した日々だった。）

〈二方で〉

鬼田社長 ははっ。さすが我が息子だな。売り上げが大幅に伸びている。

鬼田 当然だろ？俺をなめんなよ（笑）

鬼田社長 あの店は、もうすぐおしまいだろう。

鬼田 だろーね（笑）はははっ。

〈からあげ屋〉

チキン やった……！！ついに、完成だ……！！

猿 究極のからあげね……！！

キジ 「チキン印のからあげ」ってどうよ？

四人 あはは（笑う）

〈試食〉

四人 おいしい！（くちぐちに）

キジ 今まで以上においしい！

犬 これで鬼ヶ島なんかに負けないね！

チキン はい！

〈そして勝負一日目〉

チキン うわあ……緊張してきた……。

犬 大丈夫よ。私たちは最善を尽くしたわ。

〈店前〉

学生1 ん、何かいいにおいがする！

学生2 このにおいはからあげかな？

学生3 見て！この店、新メニュー出たらしいよ！

学生1 あー、おなかすいてきた！

学生2 入ってみよう！

〈学生たち店に入る〉

四人 いらっしやいませー！

学生1 新メニューのからあげおいしそう！

学生3 すみません、「チキン印のからあげ」を、三人前ください！

猿 かしこまりました！

チキン（ついに勝負が始まった。しかし、一日目の売り上げは鬼ヶ島が勝ってしまった。）

チキン やっぱり、ダメなのかな…。

犬 まだ終わってないわ！

キジ ちらし配ってくる！

〈勝負二日目〉

猿 はあ：今日もほとんどお客さん来ないわね…。

犬 昨日よりは増えてるんだからいいんじゃない？

キジ あ！お客さんよ！

四人 いらっしやいませー！

子分A へえ、すこしは客来てるんだ。

子分B チキンやつほろ。新メニューできたんでしょ？おごつてよ。

チキン え、や、やだよ。

子分B は？チキンのくせに歯向かうの？

子分A ああ、鬼田くんの前よりまずいから食べさせたくないんでしょ？

子分B あはは！それ正論！

チキン そんなことない…！わかった、おごるから食べてみてよ。

子分A どうせ、鬼田くんのところには到底敵わないけどねー。

子分B まっ、とりあえず食べてみましょうよ。

〈厨房のほうで〉

キジ なに！？あの子たち！感じ悪くない？

チキン すみません：彼女たち、いつも鬼田くんと一緒にいる子たちなんです。

犬 そう。なら、なおさらうちのからあげを食べてもらって、鬼ヶ島の前よりおいしいって認めてもらわないとね。

猿 それもそうね！

〈表へ出て〉

猿 おまたせしましたー！

子分B 結構早いじゃん。おなかすいてたしやった！

子分A ふろん。見た目はあんまり変わってないんだ。

子分B いいじさんはやく食べましょうよ。

子分A そうだね、鬼田くんの前よりおいしいのは決まってるし！

〈食べる〉

子分B なにこれ！えっ！超おいしいんだけど…！

子分A でも鬼田くんの前よりおいしいんだからっ…！

〈店を出ていく〉

猿 ふふ、驚いてた驚いてた。

キジ やっぱり味は負けてないのよ！

犬 お客さんも昨日に比べて増えてきたし、まだまだ勝つチャンスはあるわね！

チキン みなさん…！そうですね！諦めずに頑張りましょう！

チキン（しかし、二日目の結果も鬼ヶ島が上回っていた…。）

〈そして勝負三日目〉

犬 ちよつとちよつと！大変よ！

チキン どうしたんですか！？

猿 外を見て！

チキン え…！！すごいお客さんだ…！！

学生1 こんにちはー。

キジ 君たちは一昨日来てくれた！

学生2 今日は他の友達も連れてきました。

学生3 いやー、ここのチキン印のからあげがおいしくておいしくて…SNSに載せたら拡散されて。

チキン わあ…！ありがとうございます！

〈学生たちおいしそうにからあげを食べる、楽しく従業員たちと話したり〉

〈三日目の結果見る〉

鬼田 まさか…そんな、チキンのとこの売り上げが…上回るなんて…。

犬 もうわかったでしょう。鬼田くん。

猿 私たちが一生懸命作ったものが、人のレシピを使ったコピー商品なんかには負けるわけないわ。

チキン もう、やめようよ。鬼田くん。レシピを…返して。

鬼田 …っ！ うっせーよ…！！ 返せばいいんだろ！（ぶっきらぼうに返す）

鬼田（ため息）俺はチキンに敵わなかったってことか…。 ……悪かったな。もういじめねーよ…。

チキン うん…っ！

チキン（こうして、この勝負は幕を閉じた。）

〈後日。からあげ屋、客でにぎわう〉

鬼田（こっそり買いに来て）ふん、うめえじゃん。

チキン あれ？鬼田くん！

鬼田 …よお。やっぱお前んとこの、このからあげはうめーな。あつ、か、勘違いするな

よ?...俺んちの店でもオリジナルのからあげを作って、いつか超えてやるよ!そのときはまた勝負しようぜ。

チキン あはは(笑) 僕も負けないからね! さあ、一緒に食べよう!(からあげのお皿を持って) そうだ、何か飲み物持ってこようか?